

里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

| | |
|-----------|---|
| 分類 | 計画策定と実行プロセス |
| 手法名 | 「童謡」をモチーフとした里山計画の立ち上げと持続的活動による流域保全 |
| 主体 | ハサンベツ里山計画実行委員会 |
| 背景(地域の課題) | <p>北海道栗山町ハサンベツ地区では、オオムラサキの発見を契機にして、里山の保全や離農地跡の再生・活用の計画が検討されてきた(図1)。同じように全国各地の里地里山でも希少種等の発見をきっかけにして保全活動が計画される事例がみられる。</p> <p>ハサンベツの事例は、どのような着想で計画を作り、実行していくかという具体的な道筋を示している点で参考になると考えられる。</p> |
| 手法／方策の詳細 | <p>(1)童謡をモチーフとした保全・再生構想 里山保全を行うにあたって、全体的なテーマとして童謡をモチーフとすることを採用。関係者の意見を取りまとめながら具体的な図案化を行うことで、イメージを共有していった(図2)。里山だけでなく谷津田全体の暮らしの営みの風景を再生するという観点からも童謡のモチーフは合致する(図3)。</p> <p>(2)20年計画の策定 継続的に取り組みを行う姿勢を明確にするため、20年計画を策定し、実行委員会を立ち上げ方向性を確認する。取り組み内容は、水辺の生き物の生息地作り、観察会を実施、田んぼや畑などの農業体験、木工クラフト、鳥類の営巣地やえさ場作りや探鳥会の開催、炭焼きやチップや薪作り等森の多面的な活用など、多方面にわたっており、いずれも童謡のモチーフを採用した活動を展開している(例:水辺保全活動では「春の小川はさらさらプロジェクト」など)。 特に流域保全の取り組みでは、流域生態研究所とも連携しながら、効果的な自然再生活動を展開している(図4)。</p> <p>(3)行政等事業や企業との連携 道州制モデル事業、環境省モニタリングサイトなど行政の事業を活用したり、雨煙別小学校の空き校舎利用では企業と連携するなどして、単独では取り組めないようなプロジェクトを実現している。</p> |
| 手法・技術的視点 | <p>童謡をモチーフにした保全活動を掲げることにより普及啓発を促すとともに、長年にわたる計画実行を意識した活動を行うことにより、保全エリアを周辺流域に至るまで拡大させながら、確実な保全成果を上げている。</p> |

| | |
|-------------------------|---|
| <p>実行プロセス・運営体制のイメージ</p> | <h3 style="text-align: center;">ハサンベツ里山計画の実行プロセス</h3> <h3 style="text-align: center;">各主体の連携と役割</h3> |
| <p>図・写真資料</p> | <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>図1 離農地跡の風景</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>図2 意見をとりまとめ再生計画案を図案化する</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="width: 45%;"> <p>図3 離農地再生計画を絵で表す～ただ放置しないで谷津田の風景を再現しよう</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>図4 夕張川・支流域と水田環境で暮らす魚類などの水生生物</p> </div> </div> |
| <p>参考資料</p> | <p>里なび研修会in北海道パワーポイント資料(高橋慎氏)</p> |